

What IS IT?

●発行
(財)九州システム情報技術研究所
Institute of Systems & Information Technologies/KYUSHU
〒814 福岡市早良区百道浜2丁目1-22-707
(福岡SRPセンタービル7F)
Fukuoka SRP Center Building 7F 2-1-22,
Momochihama, Sawara-ku, Fukuoka City 814, Japan
TEL 092-852-3450 FAX 092-852-3455
URL : <http://www.k-isit.or.jp>
E-mail : koho@k-isit.or.jp
印刷:(株)ドミックスコーポレーション

レポート① ISIT 1周年記念シンポジウム[平成9年3月19日]

『情報通信変革の流れの中から』

ISITは一昨年12月に設立され、昨年4月福岡SRPセンタービルに移転・施設オープンして1年を迎えました。

3月19日福岡SRPセンタービルSRPホールでISIT 1周年記念シンポジウム(記念講演・パネルディスカッション)を開催し、119名の方が参加されました。



◆記念講演

(株)オプトウェーブ研究所島田禎晉所長が、「これから企業と研究開発の役割」—情報通信変革の流れの中から何が見えるか—について記念講演を行いました。マルチメディアブーム成功のメカニズムからインターネットの問題点やデジタル革命の変遷までを語られました。

最後に研究開発に必要なものは、企業倫理・研究環境面・研究者の育成に関して「限りない欲望の追求は許されない」「個々人が独創性を出せるように」「研究は場数だ」「人に好かれないと情報が入ってこない」とユーモアも交えて強調されました。

◆パネルディスカッション

引き続き、地元の产学研官を代表して富士通研究所浅川センター長、九州大学大学院牛島科長・安浦教授、九州通産局佐藤部長、コンピュータコンビニエンス野藤社長、ISIT長田所長の6名で『产学研官連携と協創の時代』についてパネルディスカッションを行いました。

各パネリストの产学研官協調の必要性や公的研究所のあり方などの発言と自由討議を行い、「学歴ではなく学習歴を重視してほしい」「ももちにある通信網等インフラを有効利用しては」「いち早く有益な情報が得られる研究所であってほしい」などの意見が出ました。



左から安浦教授、浅川センター長、牛島科長、佐藤部長、野藤社長、長田所長

レポート②

米国～九州～アジア情報関連産業拠点国際フォーラム
[平成9年2月21日]

[Local to Local産業交流事業]

2月21日JETRO等7団体共同主催で、九州と海外の産業拠点を結びつける「Local to Local産業交流事業」に関する国際フォーラムをSRPホールで開催しました。

178名が来場され、アメリカ西海岸から情報関連産業関係者3名、シンガポールから大学教授1名を招いてセミナーとディスカッションを行いました。

各講師は「シリコンバレーでは企業の枠を超えたオープンな交流がある」「情報産業発展には起業家の存在と地域社会への貢献が不可欠である」(ヘントン)「ワシントン州の企業は日本・アジアとビジネスパートナーシップをますます拡大していくだろう」(ウイルコックス)「東南アジアの半導体産業は日本に匹敵する規模になるだろう」(ジャニガン)「シンガポールはIT2000で東アジアにおける金融・商業・通信・交通のハブを目指している」(プー)と主張されました。

ディスカッションでは、九州大学大学院荒木教授がコーディネーターとして加わってビジネス交流・産業協力の可能性を探り、会場との熱心な質疑応答が行われました。

また最後に来場者も参加して交流会を行いました。



左から荒木教授、ヘントンさん、ウイルコックスさん、ジャニガンさん、プー教授

研究と開発

広辞苑によると、研究とは“よく調べて考えて真理をきわめること”、開発とは“(天然資源を)生活に役立つようにすること②実用化すること③知識を開き導くこと”です。

さて、大学でも公的な研究機関でも企業の研究所であっても、研究開発に対する多くの研究者のモチベーションは“よく調べて考えて真理をきわめること”であって、それにより歴史

に残るようなブレークスルーの多くがなされてきました。

これに対し、社会が研究開発に求めるのは、研究の結果すなわち“生活に役立つようすることや実用化すること”であって、研究者の意識と社会の要求の隔たりに産学官協調が叫ばれる一因がありそうです。その隔たりは、研究者の興味・関心の持ち方、研究に対する社会の評価・価値観および各種の制度・規制等にも係わっているので、根深く難しい問題です。

福岡ソフトリサーチパークが計画される中、こ

のような問題を克服する新しい機能をもった研究所が必要との認識から設立されたのが当研究所です。解決すべき課題や問題は限りなく大きいのですが、この新しい試みに挑戦していきたいと思っています。



森光 武則
次長
(研究企画部長)

レポート③

第2回 ISIT技術セミナー [平成9年2月28日]

「ビジュアルコンピューティングの進化」

2月28日SRPホールで、第1回「電子マネーのゆくえ」(平成8年11月20日)に続き、「ビジュアルコンピューティングの進化」をメインテーマに第2回ISIT技術セミナーを行い、128名が来場されました。

講師は、コンピュータ・グラフィックス(CG)技術で世界をリードする日本シリコングラフィックス・クレイ社とそのソフト部門のアプリケーションパートナーであるエイリアス・ウェーブフロント社より迎え、最新CG技術によるデモをふんだんに交えながら3次元映像の世界を紹介しました。

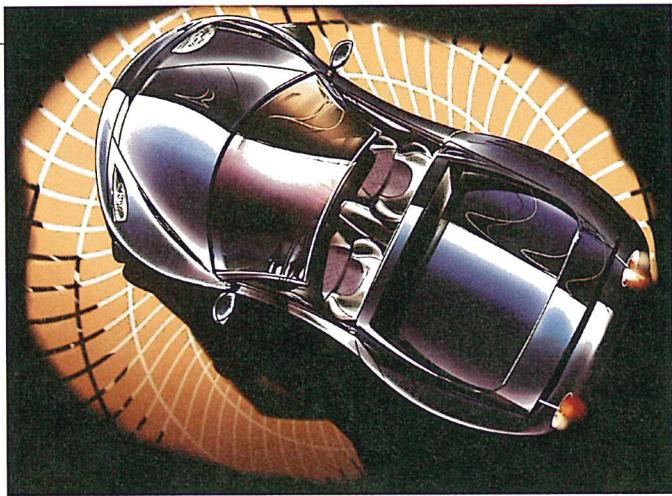


ビジュアルコンピューティングを語る
須田部長

◆第1部「ビジュアルコンピューティングの世界」

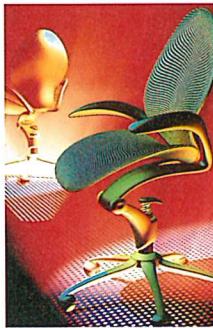
日本シリコングラフィックス・クレイ(株)
イーストアジア テクノロジー ネットワーク 東京センター
部長 須田 進

可視化技術、自律性・対話性・没入感などのバーチャル・リアリティにおける基本概念、VRMLを用いたWWW上の応用事例などを紹介し、CG技術およびヒューマン・インターフェース技術の現状や将来展望についてOHPとビデオを使って解説を行いました。



エイリアス・ウェーブフロント社のソフトウェアで制作された作品
(上: R.Paul、右下: Courtesy of Alchemy)

会場では質疑応答が活発に行われました



◆第2部「CG基本技術の応用」

エイリアス・ウェーブフロント(株)
技術コンサルタント ロバート・ブランディス

スイスでソフトを用いた時計デザイン等に従事されていたブランディスさんは1995年に来日されました。

本セミナーでは、最新CGによる自動車・戦闘機などデザインプロセスのデモを中心に、マウスで簡単に3次元映像を描いていけることを実演しました。



マウスで自由にCGを描く
ブランディスさん

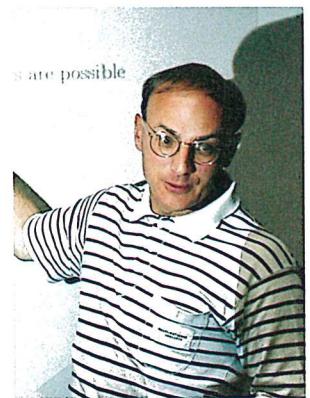
レポート④

● RAISE 集中セミナー [平成9年3月10日~14日]

「ソフトウェアの形式的開発法RAISEについて」

3月10日~14日の5日間国連大学ソフトウェア技術国際研究所研究員リチャード・ムーア博士(マカオ)を講師に招き、「ソフトウェアの形式的開発法RAISEについて」の集中セミナーを行いました。奈良・広島からの参加者もありました。

セミナーは、講師の熱意あふれる講義と活発な質疑応答・演習が行われ有意義なものになりました。日本ではまだ関心が低い形式的開発法ですが、ISIT第2研究室は定常型研究テーマのひとつとして取り組んでいます。



形式的開発法を語るムーア博士

●海外研究交流講演会 [平成9年3月14日・28日]

最終日14日の午後は、第1回海外研究交流講演会としてムーア博士から「ソフトウェア工学における形式的開発法入門」と題し、形式的開発法全般にわたって語っていただきました。

また、3月28日には韓国浦項工科大学校から電子計算所長の姜教哲教授を招き、第2回海外研究交流講演会「Feature - Oriented Reuse Method with Domain Specific Reference Architecture」を実施しました。

当講演会もISIT以外の方でも自由に参加できます。

VRML (Virtual Reality Modeling Language) とは、インターネット上に3次元の仮想空間を表現するモデリング言語です。米国のIBMやシリコン・グラフィックス社などが中心となって開発しました。バーチャル・リアリティー(仮想現実感)は、コンピュータを使って現実には存在しない空間を創造し、現実の空間を疑似体験させるものです。VRMLはすでに仮想3次元モールでのwi

情報キーワード

VRML

ンドウショッピングなどに使われています。このバーチャル・リアリティーをパソコン上に実現するVRMLは、今年インターネットのホームページにますます使われてくるようになると言われています。VRMLは今年のキーワードになるでしょう。

しかし、問題点はその映像が現実感を持つほど情報量が膨大になり、伝送時間がとても長くなることです。したがって、それに対応して伝送情報量を削減するデジタル圧縮技術も進化していきますが、光による伝送路拡大の需要は今後もますます増えていきそうです。

(鬼木)





第9回定期交流会のご案内

- 日 時 平成9年6月13日(金)午後4時~6時半
- 場 所 福岡SRPセンタービル2階 視聴覚研修室
- 講 師 (株)安川電機 技術開発本部 技術部長 濱田 兼幸
- テー マ 『FAコントローラーの展望について』

最近のFA(ファクトリー・オートメーション)機器は、部品メーカーのみならず顧客とも強力なパートナーシップを築くため、ボーダレスでオープンな対応が求められています。

このため、PC(パソコン)を採用し、アウトソーシングを活用するとともに、メーカーの独自性を出すための様々な工夫がなされています。

このようにどんどん拡がっていくFAコントローラーの世界を展望します。

■締 切 平成9年6月11日(水)

1時間半の講演・質疑応答に続き懇親会を行います。会費は懇親会費を含み2,000円です。どなたでも気軽に参加できます。

申込みはFAXまたはE-mailで事業部までお願いします。

FAX 092-852-3455 E-mail:koryu@k-isit.or.jp 担当:鬼木、国生



新パンフレット発行間近！

研究所設立から1年が経過し、今まで設立時のパンフレット(見開き6ページ)を使っていましたが、現在新パンフレットを作成中です。

今回は16ページフルカラーで写真・図も多く、より充実した内容になっています。構成は、ISITのコンセプト図、2研究室の研究内容、定期交流会などの交流事業、広報誌・ホームページなどの情報提供事業、組織図等からなっています。



8年度ISIT活動報告書作成中！

研究所設立からの様々なISIT活動状況を網羅した報告書を研究企画部が取りまとめ作成中です。

構成は、研究開発、交流、プロジェクト推進、コンサルティング、情報提供収集、人材育成などの諸事業活動実績および研究論文等の資料集からなっています。

今後も毎年度発行を予定しています。



新スタッフ紹介

11月以降、九州大学大学院の博士後期課程院生および研究生が研究助手として加わり、総勢29名となりました。

所 属	氏 名
第1研究室研究助手	謝 明(Xie Ming)
第1研究室研究助手	山本 薫
第1研究室研究助手	井上 弘士
総務部	藤野 朱美

ももち発見③ ピンクのブードル



Mタワーと西銀シーサイトビルの間に人間より大きなピンクのブードルが出現しました。これは韓国のアーチスト・申 明銀(Shin Myeong Eun)さんの「想うように変えたい」というコンセプトで制作されたアート作品です。

この先の2階に広がるスペースは「シーサイトももちセンターステージ・エアロギャラリー“デューン”」と呼ばれ、申さんを含め4人のアーチストによる巨大なオブジェ全4点があります。ハイテクビルを背景にみなさんどうお感じになりますか？



新賛助会員紹介

[法人会員] (株)沖テック 九州本部、
ラインランド技検(株) 九州オフィス、
(株)沖ソフトウェア九州、(株)リバーヒルソフト、
九州日本電気通信システム(株)、
九州日本電気ソフトウェア(株)

[個人会員] 岡部 秀夫、合庭 俊悟

法人会員62社、個人会員9名となりました。

編集室より…第五号

「光陰矢の如し」研究所の設立準備に携わってから早二年弱、月日の流れをしみじみと実感しています。「無から有」が生まれる不可思議さと喜びを身を持って体験しました。世間では「たまごっち」が一世を風靡していますが、仮想のものでさえ「無から有が生じる」喜びを味わわせてくれるのですから、現実においてはなおさらです。

ところで、私の仕事の一つに研究所新パンフレット作成があります。現在、各部室の代表メンバーを中心に作成中です。山あり谷

ありの作業ですが、研究所が産学官の人間の集合体であることから斬新な意見・アイデアが生まれることも多く、非常に勉強になっています。新パンフレットで皆さんに研究所をご紹介・PRできればと思っています。

立地環境も非常に良いので、本研究所に気軽にお立ち寄りください。

これからもよろしくお願ひします。



(総務部 木下)